

か
わ
ち
い
ろ

河内町
町勢要覧

2
0
2
3

Kanmachi

空と緑と金色のまち

河内町 町勢要覧

かわちいろ



Kawachi
空と緑と金色のまち

常陸風土記では、流海と鹿の棲む草原であった、と記されている遠い日のかわち。

利根川水運と河岸の発展で

江戸との交流を続けながら変遷を重ねてきましたが

利根川の向こうに広がる青空と

さえぎるもののない緑の大地、

そこに育つ金色の稲穂の輝きは、

変わらぬかわちの原風景として受け継がれてきました。

川面を渡って吹く風や空気に

新しい季節の訪れを感じるように

人々は、かわちの穏やかな変化と進化を

新鮮な想いで受け入れ、新たな力に変えて

今を生きています。

もくじ

- p.4-7 | 一章 大地の景 河内の稲作／郷土料理／農産物／食品加工
- p.8-11 | 二章 川辺の景 生板／源清田／長竿／金江津
- p.12-15 | 三章 生活の景 教育／健康・福祉／まちづくり／コミュニティ
- p.22-25 | 四章 古の景 歴史／文化／偉人伝／コラム
- p.26-29 | 五章 明日の景 これからのかわち
- p.16-17 | 移住者インタビュー かわちの人々
- p.18-21 | 町長インタビュー かわちみらい
- p.30-31 | かわちイラストマップ



肥沃な土壌で育まれてきた河内町の農業。品質が良く、おいしい米作り・麦作りを追求する生産農家としての心意気も、先祖代々受け継がれてきました。

利根川がもたらしたものは、水害だけではありませんでした。度重なる川の氾濫は、土壌をますます肥沃にし、利根川流域特有の温暖湿潤な気候が、河内町を茨城を代表する豊かな稲作地域に育んでくれたのです。また、河内地域の利根川流域には、藤蔵河岸や金江津河岸などのほか、80あまりの河岸があり、船着場がつけられていました。河内で作られた米や川で採れた魚

介類は、水路を使って江戸へと運ばれていきました。河内町が「江戸の台所」と称されていたゆえんもここにありま。大空の下に広がる緑の大地は美しく、悠久の流れをとどめる利根川に抱かれた町は、今なお人々に豊かな恵みを与えてくれます。

茨城を代表する稲作地域に
ら豊かな大地を守ってきま
した。

利根川の洪水を
乗り越えて
河内町は、関東地方を北から東に流れ、太平洋に注ぐ一級河川・利根川に沿って、東西に長く広がる田園地帯にあります。かつて、町内にはたくさんの沼地が点在していましたが、それは太古の昔の町域が利根川の河床にあり、集落が形成されてからも無数の水害に見舞われ、窪地が沼地になったからです。明治時代を迎えても、3年に一度は大きな洪水が繰り返され、人々は水とのたたかひの日々を重ねてきました。屋敷の一角に築いた水塚は、水害の際に避難所とした場所。洪水と共に生きる人々の知恵であり、貴重な文化財となっています。そのような暮らしの中で人々は堤防を築き、干拓し、排水路をつくり、田畑を広げなが



一章
大地の景

Kawachi

「太陽が光かがやく 水と緑の調和した 安心して暮らせるまち」をめざす河内町。大きな青空と金色に輝く稲穂は、私たちの誇りです。

見晴らしのいい
平坦な土地には
いい作物が育つ

かわちのお米

利根川がもたらす水と肥沃な大地によって作られたお米は、河内町の特産品です。ふっくらおいしいだけでなく、環境に配慮した米作りに取り組んでいる農家もいます。安全、安心、おいしさを食卓に届けたい—そんな思いが込められた河内町のお米をぜひ味わってみてください。



Kanachi



彩り鮮やかな料理を前に箸が進みます。味付けは優しく、まるやか。出汁や香味野菜、自然由来の調味料を使って食材の良さを引き出します。



菜の花会では地元食材を生かした加工品を作ったり、若い人向けの料理も考案したりしています。子ども向けの食育講座や親子料理教室、減塩、減糖料理の試食会も開きたいと意欲的です。

河内産の食材は器量良し
 食材の季節感が失われつつある現代社会で、採れたて野菜や水辺の幸で旬を感じられることはこのうえない贅沢ではないでしょうか。河内町には、豊かな大地が育んでくれた季節ごとの食材があり、地域に伝わる郷土料理として、母から娘へ、娘から孫へと受け継がれてきました。肥沃な利根川周辺の大地と生産者一人ひとりが愛情と手間をかけて育てた河内町自慢の美味しいお米は、本来の甘みと旨味、

そして香りが際立ち、炊きたてではもちろん、混ぜご飯やお寿司などで食べてもお米の味わいが失われることはありません。
 また、7月から4月までは、茨城県銚柄産地の指定を受けた河内町産のレンコンなども直売所に並びます。大きくて甘みのあるイチジクは、ブランド品として評価され、洋菓子店からの受注も増えています。そのほかにも利根川で獲れる川エビやドジョウなども郷土料理を彩る食材の一つです。



素材を生かした
 河内の手料理は
 逸品ぞろい
 どうぞ召し上がり！

河内町の旬の特産品を生かした料理は、どれも素材の良さが際立ちます。手作りだからこそできるひと工夫で、目にもおいしい料理の幅が広がります。

菜の花会

キッチン菜の花会は、食生活の改善を通して町民の生活の質の向上を図ることを目的に活動しています。そのためには塩分、糖分を抑えることが一番と呼び掛けています。会員のみなさんは、家庭で簡単にできるおいしい料理を研究し、町の広報誌にレシピを提供しています。





源清田地区

Genseida area



利根川沿いの堤防は河内町の治水の要であり、憩いの場でもあります。散歩やサイクリングを楽しんだり、のんびりと夕日を眺めたり。この景色はもう一つの町の原風景ともいえます。



大利根飛行場は、都内からのアクセスが良く、富士山も眺められる人気の軽飛行機専用飛行場です。ここを飛び立ち、日光方面を旋回して行くこともあります。

軽飛行機が飛ぶ
スカイスポーツのメッカ
空と陸との交流の拠点
利根川河川敷にある大利根飛行場では、軽飛行機やモーターグライダーのライセンスが取得できることから首都圏からトレーニングや体験搭乗のためにスカイスポーツファンがやってきます。セスナ機がゴルフ場

上空を飛んで行く様子が眺められます。
新利根川の向こうには、妙行寺や皇太神社があり、龍ヶ崎市と隣接しています。県道121号・河内竜ヶ崎線の浄玄橋周辺が整備され、龍ヶ崎市へのアクセスも快適になりました。

二章 川辺の景

Kawachi

生板地区

Manaita area



浄玄橋の先に 富士山を望む まちの中心部

自然と人が交差する場所

河内町役場や商業施設などがあり、町の中心地としての役割を担っている地域です。取手市から続き、河内町、稲敷市までを東西に横断する県道11号取手東線は重要な幹線道路。コミュニティバスも運行しており通勤通学の人々や役場を訪れる町民の生活の足として活用されています。新利根川は人気の釣りのスポットでもあり、年間を通じて釣り人の姿が見られます。人々の往来があるこの地域は、河内町の賑わいの場となっています。



町民のより良い暮らしを実現するための窓口でもある「河内町役場」のある地区です。



河内町役場に手続きに来た帰りに、商業施設に立ち寄り買い物客で賑わうエリア。人や物、そして情報が行き交います。





金江津地区

Kanaetsu area



かわちマルシェ実行委員会のみなさんは、ハンドメイドクラフトや飲食ブースなどを集めた「かわちマルシェ」を年1回開いています。「人と人のつながり」を大切に活動し、町内外の結びつきを広げています。

町民が集う
賑わいの地区

県道11号線の北側にある不動免沼を取り囲むように整備された「かわち水と緑のふれあい公園」がある地域。藤棚や八重桜、サツキ、クチナシなどの植栽が季節ごとに町民の目を楽しませてくれるほか、ゆったりと散策するにも最適です。同地区は町のほぼ中央に位置し、義務教育学校・かわち学園や認定こども園があり、文教地区として整備が進められています。そのほか産業観光交流拠点施設「かわち夢楽」や長竿亭、中央公民館、農村環境改善センター、農業者トレーニングセンター、保健センターなどこの地区にあります。



ふれあい公園は、町の一大イベント「かわちドリームフェスティバル」の会場でもあります。商工会や各種団体の物販と飲食ブースがずらりと並び、隣のかわち学園と合わせて様々なイベントが行われます。冬の夜を彩る「かわちイルミネーション」の会場としても有名です。



共同利用施設のつみ会館は、現代のニーズに合わせてコワーキングスペースやバーベキュー場、宿泊室を備えた複合施設へとリニューアルが進められています。

常総大橋を行けば 成田につながる 県境の集落

ハスの葉が茂り
稲穂が揺れる

河内町の東部に位置するのが金江津地区です。地域内を排水路が縦横に走り、水田が多く見られるのどかな農村集落を形成しています。同地区では米作やレンコン栽培が盛ん。大きな葉が茂るハス田と稲穂が揺れる水田は、金江津地区ならではの景色です。レンコン栽培では、大型ハウスや有機肥料を使うなど各生産者が工夫を凝らしています。明治32（1899）年の県域変更により、千葉県香取郡から茨城県稲敷郡に編入し一番最後に河内町に加入した地域です。



「土が軟らかく、肥沃だから良いレンコンができます」。代々続くレンコン農家が多く、後継者にも恵まれています。「おいしいね」と言われるのが一番の励みになると、みんながやりがいをもち取り組んでいます。

長竿地区

Nagasao area



Kawachi



かわち学園のとなりには老朽化したかなえつこども園とかわちこども園を統合して新たな新設こども園が開園します。(令和5年度開園予定) 町の子どもたちは、みんな顔なじみで仲良しです。



かわち学園(写真上)と認定こども園(同下)は「かわちっ子」のホームです。町内の小中学校と幼稚園、保育園の統廃合を経て、子育てと教育施設を集約した文教地区として整備が進められています。

かわち学園

かわち学園は、町内にあった小学校3校と中学校2校を統合してつくられた小中一貫校です。子どもたちの教育の充実と、豊かな人間関係の形成をめざしています。校章に描かれているのは鳳凰のヒナ「鳳雛」で、河内から世界に羽ばたく鳳凰となるようにとの思いが込められています。

楽しさと喜び
感動の体験が
人の心を豊かにする

三章 生活の景



幼児の保育と教育の両方の機能を併せもった認定こども園では、子どもたちの健やかな心身の基礎を育もうと、きめ細やかに子どもに関わる熱心な保育者たちが活躍しています。

質の高い教育と良い環境を
小さい町だからこそ実感
できる豊かな町づくりをめ
ざす河内町。それを実現す
るために、一番大切なのは、
町の未来を担う子どもたち
の教育環境をさらに充実さ
せることだと考えています。
豊かな人間教育と様々な経
験をどの子どもたちにも平
等に与えてあげたい。その
一つの答えが、小中一貫校
「かわち学園」です。そこ
は、国際化社会をリードで
きる人材育成の一貫として
「茨城で一番世界に近い町」

また、すべての町民が生
涯にわたって学ぶことを楽
しみ、心豊かに生活できる
よう幅広い分野で公民館で
の講座や体育協会のスポー
ツ活動を行っています。

らしく、英語などの語学教
育プログラムの充実をめざ
します。また、子育てと教
育をスムーズにつなぐため
に学園のとなり認定こど
も園を新設し、質の高い教
育とより良い教育環境を整
えています。

学ぶ喜びを生涯にわたって



Kawachi

産業観光交流拠点施設

かわち夢楽

1階には町内の新鮮野菜や加工品などの直売所をはじめ、レンタサイクルの受付や成田空港の相談窓口があり、シャワー室や授乳室も備えています。大型バルコニーのある2階にはカフェが設けられ、コーヒーを飲みながら田園風景と離発着する飛行機が眺められます。隣には新たに観光情報発信交流施設も建設中で町の賑わいスポットとなります。



消防団の活動には、女性ならではの適正を生かす活躍の場があります。子どもたちに向けた防災の指導や、地区のお宅に伺ってのコミュニケーションなど、地域のつながり作りにも貢献します。

町民みんなのでつくる
まちの安全・安心
そして幸せな暮らし



町内では100年以上続く農家も珍しくありません。ドローンやGPSなどの最新技術を導入したり、循環型農法を取り入れたりして効率と環境を考えた米作りに取り組む農業法人もあります。農業は大変ですが、「楽しい農業」をモットーにおいしい米づくりに励んでいます。

Kawachi

支え合い、見守り合う
毎日が楽しく、健康で安心して暮らせることが町民みんなの願いです。人と人とがふれあい、支えあう普段の日常生活が、河内町の福祉と心が通う温かいコミュニティを築いています。赤ちゃんから高齢の方々まで、それぞれの生活スタイルごとに健康相談や健康診断の機会があり、保健医療と連携した福祉のシステムネットワークの充実を図っています。



町内をこまやかに回る移動販売車は、総菜やパン、生鮮食品、生活用品などを満載しています。移動販売車が来ると、近所の人たちが集まって「今日は何を買うの?」と会話も弾みます。

支え合い、見守り合う
れる場合には移動販売車による巡回サービスを行っています。巡回日や地域は利用者の意見を聞きながら、随時見直しをしてより便利なサービスを提供していきたいと考えています。また、車を運転できない高齢の方には、通院や買い物などの際に利用できるタクシーチケットの補助も実施しています。

かわち夢楽はレンタサイクルの貸出窓口だけでなく、サイクリストたちが休憩するサイクルステーションとしても利用されています。町内の名所旧跡を巡ったり、利根川の堤防沿いに千葉県側の道の駅まで走ったり、サイクリングを楽しむためのスポットとして人気です。



Kanachi

[移住者インタビュー]
河内町が好き このまちに暮らす人々が大好き

河内町役場町民課 田口 琉空さん「千葉県出身」



今は新米だけど
町のみなさんの役に立ちたい

河内町には父の祖父が住んでいて、たまに遊びに行っていたので親しみを持っていました。高校生になった頃から引っ越し話が出ていて、町の職員募集はチャンスと思って受験しました。住んで感じたのは、のどかで落ち着いた雰囲気のある町ということですね。それと「お米がうまい」。野菜もおいしくて、こちらに来てから食べる機会が増えました。窓口では町の方々に接する機会が多く、親切を心掛けています。町のみなさんは「うちの孫と同じだね」などと声をかけてくれ、優しくて穏やかでありたいです。まだ新米ですが、町のみなさんのお役に立てるよう頑張ります。

PROFILE |
高校時代まで成田市で暮らし、卒業とともに家族と河内町に移住しました。令和3年度の採用試験に合格して町民課に配属され、最年少職員として期待されています。

グッドライフコーヒー 堀籠 智さん「千葉県出身」



目の前に広がる田んぼを眺めながら
のんびりとおいしいコーヒーをどうぞ

蔵カフェの店名は、常連だったバイク仲間に分かるように千葉の店と同じ「エスガレージコーヒー」にしました。開店からほどなくして、かわち夢楽2階のカフェの募集があり、すぐに手を挙げました。河内町は良い意味で何も無い町。だけど全然不便は感じません。私も妻ももうごちゃごちゃした町には住みたくなかったから、とても気に入っています。2号店は「グッドライフコーヒー」と名付けました。デッキから目の前に広がる田んぼを眺めながら、おいしいコーヒーを楽しんで欲しいですね。田んぼで四季が感じられ、なかでも黄金色に染まった田んぼは絶景です。

PROFILE |
千葉県内で経営していたライダーズカフェの移転先を探していたところ、知人から長年亭の蔵を紹介されて一目ぼれ。土地も紹介してもらい、夫婦で移住しました。

会社員 安達 豊さん「大阪府出身」



テレワークを機に移住
自然環境と充実した子育て支援が決め手

勤務体制の変化もありますが、部屋も手狭に感じていました。何より、子どもたちに自然の中で思い切り遊ばせてあげたいと思っていました。埼玉でも物件を探したのですが、最終的には新築で庭が広く予算内でもあり、そして子育て支援策が充実している河内町に決めました。福岡県出身の妻も、河内町は筑後川と田んぼが広がる地域の風景に似ていると気に入っています。近所の人みんな親切で、移住前の心配は取り越し苦労でした。先日新居に妻の両親が来てくれたのですが、成田空港に迎えに行くに「福岡空港から飛行機に乗るだけ。これは便利で楽だ」と喜んでいました。

PROFILE |
妻の聖世子さん、長男・大翔君、長女・羽絆さん、次女・心々羽さんの5人家族。さいたま市のマンションから都内に通っていましたが、テレワークを機に移住を決意しました。

会社員 林 義行さん「茨城県出身」



地元にはUターン
河内町ならではの魅力発信を大切に

30歳まで河内町に住んでいましたし、仕事の取引先も多いので移住という感覚はないです。町はいい意味で何も変わっていないし、のびのびと生活できています。ただ、町を離れた同級生も多く、その点は少し寂しいです。また、スーパーがないなど少し不便なところはありますが、それ以上に子育て支援が手厚いところがいいですね。今後は子どもが遊べる公園や施設を整備してくれると嬉しいです。ドリームフェスティバルやイルミネーションなどみんなが楽しめるイベントは、仕事先でも話題に上ります。かわち夢楽も観光スポットとして注目されていますし、みんなで町の魅力や名物をもっと発信していくことが大切だと思います。

PROFILE |
河内町出身で就職後に龍ヶ崎市へ引っ越し、家族4人で暮らしていました。小学校入学を控えた長女の教育環境を考え、小中一貫校と子育て支援も充実している河内町へのUターンを決めました。



都会に意外に近い
イナカ

河内町は茨城県の南端に位置し、都心から50km、筑波研究学園都市からは30kmの距離にあり、利根川と新利根川に沿って東西19・2km、南北に2・8kmと細長い形をしています。

総面積44・30km²の町にはほとんど起伏がなく、その平坦な土地には水田が広がっています。山があれば新緑や紅葉で四季を感じられますが、ここでは水田の稲の成長で季節を知ることができます。

幹線道路は、つくば市に続く国道408号が南北に走り、取手東線の県道11号が東西を結んでいます。利根川を渡れば、千葉県の成田市や栄町です。成田国際空港へも20kmと近く、日本国内はもとより、世界各国

への旅行やビジネスにも便利です。成田国際空港は車で30分程度ですから、日本国内の主要都市に3時間ほどで行けます。河内町は都会に意外に近いイナカなのです。

穂平線の見える町

河内町は町全体が農業振興地域に指定されており、お米やレンコンを中心に農業が盛んです。町のイメージキャラクターの「かわち丸」は、頭がお米で体がレンコンなのです。先祖代々の農家も多く、地域のみんなが顔なじみです。私もそうですが、子どもの頃から田んぼが視界の先までずっと続く景色を見て育ちました。この景色は、いわば町の原風景といえます。私たちは、大空と水田を分ける地平線を「穂平線（すいへ



運動広場はスポーツや健康増進の拠点として整備が進んでいます。リニューアルしたテニスコートは、コート面にゴムチップを採用して足腰への負担を軽減しています。フットサルコートも新設予定です。



毎年11月上旬から翌年2月中旬まで開催される「かわちイルミネーション」は、かわち水と緑のふれあい公園を会場に、趣向を凝らした色とりどりのイルミネーションで彩られます。園内の不動免沼に映るその景色は幻想的で河内町の冬の風物詩となっています。



河内町の未来を担うかわち学園の子どもたちは、明るく朗らか。校内の吹き抜けには町の木であるケヤキの大きなオブジェがあり、6歳から15歳までの子どもたちの成長を見守っています。



かわちみらい

©インタビュー

河内町長 野澤良治

Kawachi



金江津地区のハス田



野澤町長は「夢のある町づくり」を掲げ、町政に取り組んでいます。できることをどんどん進めたいと身振り手振りを交えて熱く語ります。



河内町立かわち学園



河内町産の食材たち。左奥からまいたけ、左手前は青パパイア、右はレンコン。(写真左) 河内町産のお米を全国へ「オコメール」(写真右)

町の魅力発信
移住促進のカギ
コロナ禍で様々なイベントができませんでしたが、令和4年の秋に「かわちドリームフェスティバル」を開催しました。コロナ前まで別々に開かれていた町民運動会、敬老福祉大会、かわちフェスタ、かわちイルミネーションを統合した

す。また、買い物については、移動販売車の運行を実施していますが、令和5年からは運行事業者を増やして2社体制としました。利用されている方々の声を聞きながら、きめ細やかなサービスができるように努めていきます。

人口減少に歯止め
魅力あるまちづくり
町にとって喫緊の課題は人口減少に歯止めをかけることです。令和5年1月1日現在の人口は8,140人です。昭和30年には1万4,000人弱が住ん

いでせん」と呼んでいます。河内町は、穂平線の見える町なのです。かわち夢楽の2階のバルコニーでコーヒーを飲みながら、飛行機がゆっくりと穂平線の彼方へと飛んでいくのを眺めていると、日常のあわただしさを忘れられますよ。

十三間戸⇄竜ヶ崎駅(2便のみ終点を延ばす)を運行している河内町コミュニティバス。買い物などの町民の生活を支える重要な交通機関となっています。



一大イベントは大勢の人で賑わいました。イルミネーションは冬の風物詩として県外の方にも広く知られています。令和5年には産業観光交流拠点施設「かわち夢楽」がグランドオープンし、つつみ会館西側にはイーストパーク2023が整備されました。

観光や子育て支援策などに加えて、移住を促進するには住居の確保も欠かせません。町では、空き家の情報を早期に把握し、移住希望者につなぐ施策を始めています。また、農業人口も減っていくなかで、農地の集約化や農地中間管理機構の利用を進め、大規模農業への転換や新規就農者の移住促進を図っています。



かわちイルミネーションの会場となる公園内を歩きながら飾りつけの準備状況を確認します。

豊かな暮らし
教育と福祉の充実
人口を増やすといっても簡単ではありませんし、河内に来てもらうには特徴が

でいきましたが、経済成長とともに都市部への流出が増え、平成25年には1万人を切ってしまいました。人口減少と少子高齢化は、河内町だけでなく、日本全体の傾向です。町では、魅力あるまちづくりを実現し、人口減少に歯止めをかけるために「河内町総合計画」を策定しました。この計画では、「安定した雇用の創出」「定住促進・豊かな暮らし」「教育・子育て」「安心できる暮らしと連携」を基本目標としています。

必要です。もちろん、それは住民のみなさんや町の将来にとってもプラスになることでなくてはなりません。私は教育と福祉の充実が重要だと考えています。町では小中学校の統廃合を進め、平成29年に小中一貫校「かわち学園」を開校しました。そして、令和5年には町内にあった2つの認定こども園を統合し、かわち学園に隣接して認定こども園を新設します。給食費や保育料の無償化の実施なども含め、子どもたちに段差のない学びを提供する環境を整備します。福祉面では特に車を運転できない高齢の方への支援として、通院や買い物などに利用できるタクシーチケットの補助を行っていま

かわちドリームフェスティバルは大盛況。会場には笑顔があふれ、野澤町長も笑顔で町の人たちと触れ合い、町政への意見や要望に耳を傾けました。



していきます。河内で生まれ育った私は、この町が大好きです。町のみなさんにも、河内をずっと好きでいてもらいたいです。そのためには、町の人たちが今欲しているものが何か、現代に即しているものは何かを見極めて、河内町の未来に向けて舵を取っていきたくと考えています。



妙行寺の本尊である木造阿彌陀如来坐像は、慶派（運慶・快慶の系統）の鎌倉時代の作。河内町で唯一の茨城県指定の文化財です。



妙行寺



生板の三義人供養塔



海禅寺



大洞院 曲流舎句碑群



権八の渡し



側高神社

四章

古の景

Kamachi

舟運の要所として
栄えた史跡と
文化財を訪ねる

常陸国と下総国が融合

『海禅寺』を象徴する朱塗りの鐘楼門は「赤門」の名で親しまれており、彫刻は天明期（1781～1788）の特徴を示しています。江戸時代・18世紀の建立と伝わる『側高神社』の本殿は、町の文化財に指定されています。『権八の渡し』は、権八という名前の渡し守にちなんでつけられた利根川の渡しの跡。俳諧が盛んだった時代を物語る句碑が多く残る、『大洞院 曲流舎句碑群』。

河内町は、古代から明治時代まで、旧生板・源清田・長竿の三つの村は常陸国に、旧金江津村は下総国に属していました。現在の町域に集落が形成されるようになったのは、金江津地区にある常総板碑の存在から鎌倉時代以降ではないかと見られています。南北朝時代（14世紀末）、香取神宮文書に金江津の地につながる「カナエト」の記事があり、徳川家康の家臣、松平家忠が書き残した日記にも船着場「かなえと」が登場していることから利根川水運の河岸として栄えていたことがわかります。

川面の風に
悠久の時を感じて

利根川沿いを眺めてみると、町の西部に位置する「藤蔵河岸」には、かつて川を往来する舟人たちの灯台の役割を果たしていた常夜燈があり、舟運の要所として栄えた当時の面影を残しています。常夜燈から東に2kmほどの場所には「権八の渡し」があります。利根川に橋がかかっていなかった当時は、ここから渡し舟が出ていました。ここから渡し舟に乗った祐天上人が嵐だったにもかかわらず無事に対岸にたどりついたという伝説があり「事故の起きない渡し」として評判だったと伝えられています。



藤蔵河岸に建つ常夜燈。総高3.3mで竿部の正面には「象頭山」と刻まれていて、航海安んずる神・金比羅大権現を祀っています。

生板の三義人

コラム

河内伝

河内町生板地区にある妙行寺は、満足山極楽院と号する天台宗の古刹です。大同元年（806年）に満願上人が開いたと伝わり、江戸時代には上野寛永寺の直末寺として、14の末寺を数えました。境内を行けば老樹が茂り、荘厳なたたずまいに深い歴史が感じられます。

この妙行寺の境内には、地域の農民を救おうと、代官の暴政を直接勘定奉行に訴え出て、捕らえられ、獄死した三名の勇士を祀った三義人の供養塔があります。

年貢減免を代官に直訴

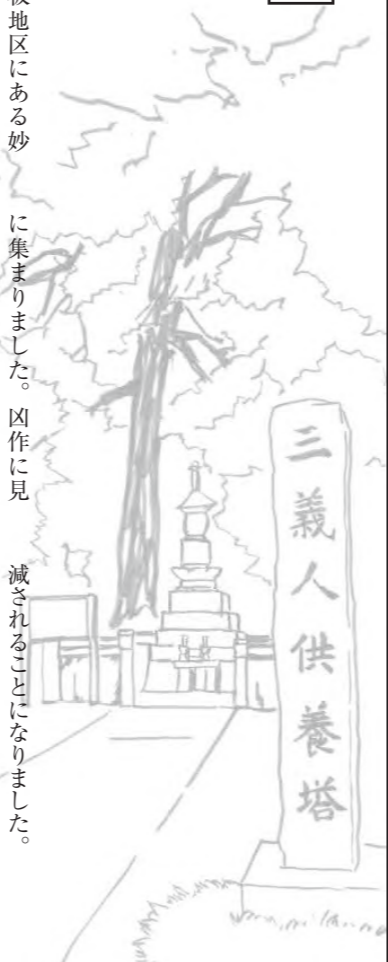
文化十四年（1817年）10月、代官・吉岡次郎右衛門が支配する生板村など八か村（現在の河内町・龍ヶ崎市・常総市など）の農民430余名は、妙行寺境内

に集まりました。凶作に見舞われ、年貢減免を願ったにもかかわらず、かえってさらに重い年貢を課した代官の過酷な要求にどうすべきか協議をするためです。そこに現れたのは、かつて妙行寺が焼失したとき、和尚を助け、本堂再建に尽力した片岡万平でした。万平は、こうなれば代官・吉岡邸に行き、直訴するしかないと訴え、石山市左衛門、成毛与五右衛門も賛同し、湯島天神下の吉岡邸門前で年貢の減免を願い出ました。この事態に驚いた村役人が駆けつけ、大部分の農民は引き上げましたが、万平たちはさらに勘定奉行に訴え、ついには小伝馬町の牢獄に繋かれ、3人もも獄死するという悲劇が起きました。しかし、この4年後、代官は解任され、農民の年貢は軽

減されることになりました。

町を挙げて三義人を供養

近隣の村民たちは、犠牲となった三義人の勇敢さに感謝し、その霊を供養するため、文政六年（1823年）に法華塔を建てました。塔には、万平たちを陰で支えた妙行寺の和尚の名と、台座には供養塔建立に協力した13か村の100名もの村民の名前が刻まれています。万平たちが江戸に向かった10月20日を命日として供養が行われてきましたが、昭和47年「三義人顕彰会」が組織され、河内町を挙げて三義人155年忌慰霊法要が盛大に行われました。現在では、毎年12月の第一日曜日に法要が行われています。



The Masters of Kawachi town | 河内の偉人たち

大野誠夫

Nobuo Ohno



長塚節に次ぐ
茨城を代表する歌人

戦後の短歌に新境地を開いた、茨城を代表する歌人。戦後「薄明」42首を発表し、歌壇に登場するやいなや脚光を浴びます。最初の歌集「薔薇祭」は戦後の風俗や人々の心境を芸術派の視点で表現した短歌が高く評価され、歌壇のスター的存在になりました。大正3年、現在の生板地区に誕生。

秋山海堂

Kaido Akiyama



「河内の良寛さん」の名で
親しまれる書の達人

25歳で権威ある「書鑑」で特待生に合格し、翌年から著名な書道展に連続して入賞。「東に海堂あり」と全国に名をとどろかせました。昭和29年（1954）に白龍書道会を設立し、書道の普及に努め、会員数1万人の団体に育りました。明治39年、現在の生板地区に誕生。

大野精七

Seishichi Ohno



医学者にして
日本スキー界の発展に尽力

東京帝国大学医科大学を卒業後のドイツ留学中にスキーに魅了され、帰国後は北大教授に就任するとともにスキーの普及にも精力的に取り組みました。宮様スキー大会の開催や大倉山シャンツェ建設の実現などが昭和47年（1972）の冬季オリンピック札幌大会の開催に結びつきました。明治18年、現在の生板地区に誕生。

美しい自然と
地理的優位性で
未来図を描く



昭和43年（1968年）に開通した長豊橋は、国道408号線の利根川に架かる橋。河内町を接点とした茨城県と千葉県成田市を結ぶ基幹道路となっています（下町歩から臨む、昇る朝日）。



東日本大震災以降、河内町でも防災への取り組みを強化してきました。



旧金江津中学校は、ドローンの開発研究会が利用しています。「技術開発をスピーディーにそしてもっと気軽に」をコンセプトにドローンの開発に取り組んでいます。

五章

明日の景

Kawachi

町制施行から四半世紀

平成8（1996）年6月1日に町制施行され、河内村から河内町となりました。町となって早くも四半世紀が過ぎ、その間には、河内町自慢の新鮮な農産物や加工品が注目され、中でもレンコンが県の銘柄産地の指定を受けるなど、町民にとって誇らしい出来事がありました。また、町を東西に貫いて走る県道11号取手東線では生板バイパスの整備が進められているほか、町民の毎日の足として導入したコミュニティバスも順調に運行しています。太古を巡る昔から、この地で暮らし、かけがえのない自然と伝統文化を継承してくれた先人たちは、きつとこんな穏やかで心豊かな暮らしが今なお営まれていることを喜んでくれているに違いありません。

まちの魅力を多角的に発信

首都・東京からも近く、豊かな穀倉地帯をもつ河内町は、成田国際空港に隣接する「茨城で一番世界に近い町」です。グローバル化が進む現代において、この安定した豊かさを保ちつつ、町の明日に向けて多角的に取り組んでいます。

コロナ禍を乗り越えて令和4（2022）年の秋に始まった「ドリウムフェスティバル」は、河内町が一つになって盛り上がる一大イベントです。また、町の有志の方々が手作りのグルメやクラフト作品などを販売し、新たな交流を生み出している「かわちマルシェ」やハンドメイドクラフトのワークショップも開催されています。町と町の人々が一緒に魅力を発信することによって、賑わいが賑わいと呼び、町の活性化をより推し進めています。



「かわちマルシェ」ではハンドメイド雑貨やカフェ、新鮮野菜などの出店が並びます。ハンドメイド作品のワークショップも開かれます（写真右）。旧金江津小学校（写真左）は、音響・映像会社がロケーションを生かし、学園ものの映画やドラマなどの撮影スタジオとして利用しています。

空き家の有効活用

歴史ある河内町には古民家が多くみられます。町では、古民家を含めた空き家の利活用を促進する空き家登録制度を制定しています。登録された物件情報は、移住希望者に提供して移住推進を図っています。



町の名産品はお米やレンコンなどの農産物です。お米をゲル状にした「ライスジュレ」や米粉シフォンケーキ、ブルーベリーやユズ、ナスなどの加工品の開発に取り組んでいます。

河内の土と水が育む豊かな食材
河内町ではお米やレンコンをはじめ、ネギやダイコン、ナス、キュウリ、イチジクなど様々な野菜が作られています。生産者一人ひとりと丹精込めたこれらの農産物は、まさに河内の名産品です。
特にお米は河内の自慢です。甘みと旨味が感じられ、香りも良いと好評です。他の食材の良さを引き立てる万能食材といえます。そのおいしいお米を手軽に送れる「オコメール」も開発さ



「長竿亭」でおいしいそばを提供している石嶋昭男さんは、初めて長竿亭を見たときに「家に人を呼び寄せる力がある」と感じたそうです。北海道旭川江丹別産のそば粉を使ったこだわりのそばは評判を呼び、県外からも多くの人々が訪れる人気店です。

れ、好評です。
レンコンは茨城県の産地銘柄指定を受けており、その品質は県内でもトップクラスを誇り、その食感や味わいは抜群です。ハウス栽培に取り組んでいる生産者もいて、レンコンの通年収穫を実現しています。
お米を使った「ライスジュレ」やブルーベリーやユズ、ナスの手作りジャムなどの加工品も豊富です。また、廃校を利用してチョコウザメやトラフグを養殖し、キャビアや鍋用に加工して販売している事業者もいます。

敷地内にある立派な蔵はおしゃれなカフェになっています（写真左）。きれいにリノベーションされた母屋では、板の間（写真右）や和室、土間でおいしいそばがいただけます。



人と自然が調和
豊かな環境生かし
明日を描く

「長竿亭」は平成23（2011）年に長竿家から町に寄贈された伝統的民家です。歴史を感じさせる門や母屋の佇まいを生かし、平成28（2016）年にまちの小さな拠点として再生されました。季節の変化が楽しめる庭も見事です。

河内町へのアクセス

●お車でお越しの場合

- ・県道208号線小通幸谷から龍ヶ崎経由、県道121号河内竜ヶ崎線 [約30分] 龍ヶ崎市
- ・常磐自動車道(谷田部IC)から国道408号線 [約60分]
- ・東関東自動車道(成田IC)から国道408号線 [約30分]
- ・圏央道(稲敷IC)から国道408号線 [約20分]

●電車でお越しの場合

- ・JR上野駅→(常磐線)→龍ヶ崎市駅→(関東鉄道竜ヶ崎線)→竜ヶ崎駅 [約60分]
- ・JR水戸駅→(常磐線)→龍ヶ崎市駅→(関東鉄道竜ヶ崎線)→竜ヶ崎駅 [約100分]
- ※関東鉄道竜ヶ崎駅からバス・タクシーで約20分



Kawachi
Illustration
Map | かわち
イラストマップ



河内町 町勢要覧

発行 河内町

〒300-1392 茨城県稲敷郡河内町源清田1183

Tel.0297-84-2111 Fax.0297-84-4357

<http://www.town.ibaraki-kawachi.lg.jp>

発行日/令和5年3月



河内町イメージキャラクター
かわち丸